

名古屋芸術大学の名称の変更について（届出）

令和 3 年 6 月 11 日

文 部 科 学 大 臣 殿

学校法人 名古屋自由学院

理事長 川村 大介

このたび、下記の事項について、学校教育法施行規則第 2 条の規定により、別紙書類を添えて届け出ます。

記

- ・ 人間発達学部子ども発達学科の名称の変更（教育学部子ども学科）

変更の事由及び時期を記載した書類

1. 名称変更の内容

(現在の名称)		(変更後の名称)
名古屋芸術大学		名古屋芸術大学
<u>人間発達学部</u>	→	<u>教育学部</u>
<u>子ども発達学科</u>	→	<u>子ども学科</u>

2. 名称変更の理由

本学を設置する学校法人名古屋自由学院の歴史は昭和 27 年に遡る。それは、当時公立学校の教員だった初代理事長（水野トシ子）が「日本の戦後復興の原動力となるのは、教育以外にない」という強い信念を抱き、私財を投げ打って「滝子幼稚園」を開設したことに始まる。以降、名古屋自由学院幼稚園教員養成所の開設や、人間発達学部子ども発達学科の前身にあたる名古屋自由学院短期大学等の時代を経ながら、これまで数多くの教育者・保育者を輩出してきた。令和 2 年に本学が創立 50 周年を迎えるに当たって、人間発達学部子ども発達学科では次の半世紀を見据えて、今後担うべき社会的な役割や責務、果たすべき使命について議論を重ねてきた。

これからの子どもたちが生きる社会を慮るに、この度の学習指導要領改訂に関する平成 28 年中教審答申でも指摘されているように、現代社会は目まぐるしく変化し、複雑かつ不確実性の高い時代となってきた。さらに今般の新型コロナウイルス感染症の感染拡大がそのことを一層加速させたといえる。そのような時代の中で、次世代の子どもたちが社会の変化を乗り越え、持続可能な社会づくりの担い手として求められる資質・能力を身につけるためには、まずはその教育人材の育成が喫緊であることは言うまでもない。特に、たとえば外国人児童生徒の増加や相対的貧困に纏わる諸問題といった教育現場における子どもたちの多様化への対応、また Society5.0 時代の到来に伴う、将来の教育現場のスタンダードとなり得る ICT や先端技術の効果的な活用方法の研究とその指導者養成の急務、そして今般の新型コロナウイルス感染拡大を節目として、「新しい生活様式」への移行過程で求められる、幼児・児童生徒を対象にした専門的なサポートや、生活環境・習慣の変化に伴う健康管理・維持のための取り組み等、次世代に対して教員養成系学部が担う責務と課題は大変大きい。

このような時代環境を踏まえ、人間発達学部子ども発達学科では教員組織体制のほか、これまでの教育課程で行われてきた、子どもの発達過程全体を俯瞰しながら教育や保育に関する知識と技術の修得を目指すという基本構成は維持しつつ、これからの教育現場で求められる専門的見識を備えた教育人材の輩出に務めるべく、時代の要請に応じた教育内容の

充実とアップデートを図る。そして戦後復興という、まさに現代社会と同様に「時代の転換期」にあった学院創立時の教育の信念に再度立ち返り、社会に向けて、本学部の教員養成に対する今後の姿勢を意思表示し、かつ子どもの教育に源流をおく者としての決意表明のために名称変更を行う。本学部の新名称は「教育学部子ども学科」とし、教員養成を主目的とすることがより明確となるため、将来の教育者として高い志と意欲を持った入学者の確保に結びつき、最終的に地域社会に向けた優れた教育人材の輩出に寄与することを期待する。

3. 新名称の対象年次

第1年次

4. 名称変更の時期

令和4年4月1日